

## 表現の自由はどこまで許されるのか

令和2年11月17日

森田晃司

フランスではイスラム教指導者の風刺画をめぐる殺人事件から、表現の自由が再び問題となっています。

人種間の歴史、文化の相違が表現の自由をめぐる対立となって表れていると云え、これはフランスに限らぬ世界各国での現象でもあります。

今一度、表現の自由とは何かを考えてみることにいたしましょう。

以下は簡単な参考資料です。

### フランスの状況

イスラム教を信奉する移民の増加を受けて宗教対立が先鋭化するフランスで、2015年1月 週刊風刺新聞『シャルリー・エブド』のパリ本社にイスラム過激派が乱入し、編集長、風刺漫画家、コラムニスト、警察官ら合わせて12人を殺害した事件が発生し、以後しばらく混乱が続いた。

さらに今年の10月には、ムハンマドの風刺画を生徒に見せる授業を行った教師が殺害される事件が発生、これを受けてマクロン大統領が「表現の自由」を擁護する発言をしたところ、世界中のイスラム教徒から抗議を受ける事態に発展している。一部地域ではフランス製品の不買運動まで起こっている。

## 米国の状況

大統領選挙に関連して、新聞・TVなどの大手メディアの9割以上が、トランプ大統領に対する激しいネガティブキャンペーンを展開、その常軌を逸する偏向した報道姿勢に対して、「報道の自由」を疑問視する声が出ている。

また、FACEBOOK, TWITTER 社の検閲的な掲載拒否をめぐっても、論議が巻き起こっている。

## 日本の状況

2018年8月 ヘイトスピーチ法が成立。(正式名称は、本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律)

逆差別による表現の自由の圧迫との疑問が提起されている。

2019年 愛知トリエンナーレにおける「表現の不自由展」の展示内容が、公的資金を使って行われる展示会に適切かどうか、議論を呼んだ。

昭和天皇の遺影を燃やす映像と韓国製慰安婦像のコピーに批判が集まった。

ポリティカル・コレクトネス(英:political correctness 略称:ポリコレ, PC) とは、直訳で「政治的な正しさ(or 妥当性)」。

人種・性別・文化・民族・年齢・宗教・政治 指向・性癖等々の違いによる偏見、差別を含まない言葉や用語や表現を用いることを意味する。

1980年代に米国で始まり、今や世界各国で広がりを見せている考え方だが、一

部の政治勢力あるいは大手マスコミによる言論の圧殺との批判もある。

以上